

橋本宗吉とエレキテル

「橋本宗吉とエレキテル」は展示場4階の「大阪の科学史」コーナーに登場した新展示です。橋本宗吉(1763～1836)は、江戸時代の大阪で活躍した蘭学者で、当時大阪ではじめてオランダ語を読みこなし、医学や薬学、静電気などの研究を行った人物です。

静電気の分野では、日本で初めて科学的な研究を行いました。オランダ書にあった静電気の記事に興味を抱いて翻訳し、静電気の性質を研究し、またエレキテルを作ってさまざまな実験をしています。その中で、静電気は不思議なものではなく、物の性質であることを解き明かしたことから、のちに「日本の電気学の祖」と呼ばれるようになりました。

さて、新しい展示では橋本宗吉の著書『エレキテル究理原』(複製本)と、エレキテルの模型をご覧ください。

『エレキテル究理原』は宗吉の代表的な著作で、静電気とはどのようなものかという解説をはじめ、静電気の性質を利用した18種類の実験の方法が紹介されていて、静電気を科学的に解説した日本で最初の本です。また、日本初の静電気実験マニュアルということもできます。

また、橋本宗吉が作ったエレキテルの模型は『エレキテル究理原』に描かれた図をもとに作ったものです。エレキテルは静電気発生装置のことで、ハンドルを回してガラス筒を回転させ、皮革との摩擦で静電気を起こします。宗吉はこれを用いて様々な実験をしました。

江戸時代に活躍した非常にユニークな科学者の業績を、新しい展示場でご覧ください。

嘉数 次人(科学館学芸員)



写真:展示中の『エレキテル究理原』に描かれた静電気実験の図。解説パネルには、本に描かれた絵がかりばめられています。